

再生医療講演会

歯科界の未来に希望の光

再生医療の実用化を実感

歯科部 津田 謹誠(津幡町)

保険医協会歯科部は、十一月六日、ホテル金沢において再生医療講演会を開催し、約三十人の歯科医師、歯科衛生士らが参加しました。

講演会はず、鶴見大学歯学部口腔内科学教授の里村一人先生より、「歯科領域を中心に加速する再生医療」というテーマで、再生医療の基礎から最新情報までをお話いただきました。



講師の鶴見大学歯学部口腔内科学の里村一人教授

講演の中で特に興味をもったのは、次の二点です。
①歯の再生研究において、ハツカネズミの歯の形成に

は五十日かかる。これをヒトにあてはめると膨大な時間を要するため、歯の形成を促進させる方法を確立しておくことが重要であり、そのキーポイントになるのがメラトニンである②分化転換現象を利用して、生体内で最終分化した機能細胞を別の機能細胞に変化させることにより、幹細胞に依存しない再生医療の実現をめざすということ。

初めて耳にする話も多く、膨大な情報を九十分という限られた時間で分かりやすく解説してくださった里村先生に敬服すると同時に、再生医療分野のトップ

ランナーが歯科の領域にいらっしゃることを大変心強く感じました。
里村先生の講演後は、株式会社再生医療推進機構技術部長の岩堀禎廣先生より、「歯髄細胞バンクが果たす役割」というテーマでお話いただきました。細胞バンク用の細胞は、歯髄が臍帯血や骨髄と比較してさまざまな点で有利であること、放射性物質であるストロンチウムは歯牙に蓄積するために内部被曝の指標に使えること、虎の門病院の医師が福島原発事故処理の作業員に再生医療用に細胞をストックしておくことを推奨したことなどから、福島の方々から歯髄バンクへの問い合わせが激増しているお話も興味深い情報でした。

私たち歯科医師は、日々、歯科医療を通じて患者さんの未来の幸せに貢献したいと考えています。今回、両先生から再生医療が着々と実用化されている現状をお聞きしたことで、私たちが再生医療に貢献できる日もそれほど遠くないと確信し、歯科界の未来にも希望を持つことができました。



約30人の歯科医師、歯科衛生士らが参加して開かれた再生医療講演会 (11月6日・ホテル金沢)



講師の(株)再生医療推進機構の岩堀禎廣技術部長